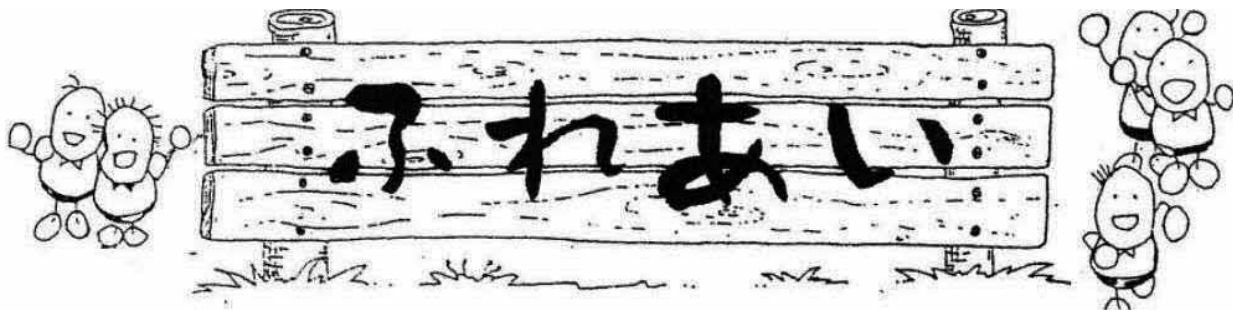




電話番号のあれこれ

携帯電話が普及し、電話番号を調べてダイヤルする機会は激減しました。特に小中学生の場合、登録済みの連絡先をタップするだけということが多いため、「市外局番」が何なのか分からないという子どもが増えているようです。固定電話そのものだけでなく、市外局番という存在自体が「古き良き文化」になりつつあるのかもしれませんが、とはいえ、今でも電話番号の重要な要素です。

今回は、電話の歴史や、知っておくと役立つ電話番号の仕組みについて紐解いてみましょう。

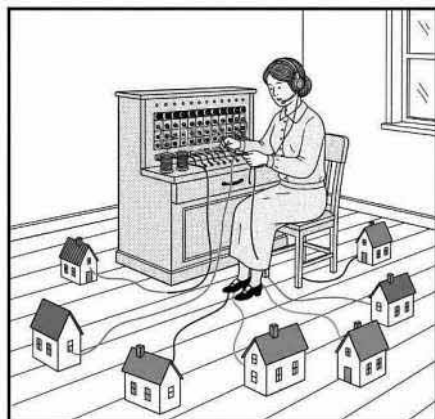
電話の歴史～交換手がつないでいた時代～

日本で電話サービスが開始されたのは明治時代。グラハム・ベルが1876年に電話機を発明してから14年後のことです。電話料金は現在の物価に換算すると月額料金はおよそ15万円。非常に高価なサービスでしたが、一度月額料金を払えば市内通話はかけ放題だったようです。



当初は一般家庭で使われることはほとんどなく、数字の書かれたダイヤルやボタンがない電話が主流でした。電話機のハンドルを回して発電させ、電話の発信者と受信者をつないでくれる交換手と呼ばれて通話の申し込みをするシーンを映画やアニメで観たことはないでしょうか。受話器を上げるだけで交換手につながる仕組みだったので自分で番号を操作する必要がなかったのです。電話の加入者数が少ない内は電話の都度、交換手が手作業でプラグのついたコードを抜き差しして交換機の線をつなぐことで通話ができました。

これを糸電話に例えてみましょう。すべての家同士を直接糸でつなぐと、街中が糸だらけになってしまいます。そこで、街の中心に「交換手」を置き、全員の糸を一度そこへ集めます。誰かが電話をかけたいときは、交換手がその人の糸と相手の糸を「結び直す」ことで会話を可能にしていたのです。しかし、電話はとても便利なので当然加入者数が増えていき、だんだんと交換手の仕事が追い付かなくなりました。



そこで発明されたのが番号に基づいて自動で相手を判別してつなぐ「自動交換機」です。

関東大震災の復旧をきっかけに、日本でも自動化が進み、人々は自分でダイヤルを回して番号を入力するようになりました。



市外局番のルール

電話が一般家庭に広がると、遠く離れた都市を識別する仕組みが必要になりました。そこで生まれたのが「市外局番」です。

日本の電話番号は、1桁目が必ず「0」から始まります。これは「国内開放番号(国内プレフィックス)」と呼ばれるもので、「これから国内のどこかへかけます」という合図です。よく「03」全体を市外局番と思われがちですが、厳密には「0」を除いた後ろの数字(東京なら「3」)が市外局番です。

国際電話の場合は前述した国内開放番号の「0」がなくなります。そのため、着信画面で頭に「0」がない「+」の記号や見慣れない数字から始まる番号は海外からの着信ということになります。

番号の表示だけで国際電話だと気づくことができれば身を守ることにつながるかもしれません。

市外局番	地 域 (厳密には一致しない地域も一部あり)
1	北海道・青森・秋田・岩手
2	山形・福島・宮城・茨城・栃木・群馬・新潟・長野
3	東京 23 区
4	埼玉・千葉・神奈川・東京都下(23 区外)
5	山梨・静岡・愛知・岐阜・三重
6	大阪
7	富山・石川・福井・滋賀・京都・奈良・和歌山・兵庫
8	中国・四国
9	九州・沖縄



東京や大阪のような大都市には1桁の市外局番が割り振られ、電話加入者が少ない地域には2桁～3桁になります。その分「市内局番」の桁数を増やすことができるからです。

札幌では「11」、那覇市では「98」という市外局番が使われています。

電話番号の仕組み

日本の固定電話番号(合計10桁)の構成は以下のようになります。

0 ○ - ○○○○ - ○○○○

国内開放番号 市外局番 市内局番(市外+市内合わせて5桁) 加入者番号(4桁)

市外局番の後に並ぶ1～4桁の数字は市内局番で、総務省によって電話会社ごとに指定し、都道府県内の市区町村に割り当てられています。市外局番と合わせて5桁になるように調整されているのが特徴です。東京23区であれば「03」の後に4桁の数字、那覇市であれば「098」の後に3桁の数字が並びます。最後に加入者番号という4桁の個別番号が割り当てられて、固定電話番号全体で10桁の数字になります。加入者番号の割り振りは電話会社がしています。

携帯電話の番号(090、080など)も、90、80に続く5桁で携帯電話会社が識別できるように割り当てられています。つまり、電話番号だけで契約している携帯電話会社が分かるということです。電話番号をそのまま引き継いで携帯電話会社だけを変えるナンバーポータビリティをしたことがある場合はその電話番号で最初に契約した携帯電話会社になります。
(「電気通信番号指定状況」で検索可能)。



市外局番なしで電話をかける方法

意外と知らない人が多くて驚いたのですが、同じ市外局番の地域内に住んでいる固定電話同士であれば国内開放番号と市外局番を省略して電話をかけることができます。つまり、23区同士の場合であれば固定電話で電話の所在地がはっきりしているときは「03」を省略することができます。

とはいえ、現在は従来の固定電話もアナログ回線からインターネット回線を使って通話する電話サービスに移行しており、環境によっては福岡にいても東京の市外局番を使うことができるようになっています。所在地が実は市外なのに市外局番をつけなかった場合は接続されません。これはたまたま同じ市外局番だった場合も同じで、「単位料金区域」が異なればつながりません(さいたま市と熊谷市の「048」など)。

かつては電話で「時報」を聞いて時計を合わせたり、「天気予報」を聞いたりしていました。ネットの普及でこれら 3 桁番号サービスも姿を消しつつありますが、電話はずっと進化を続けています。2026 年 7 月からは、新たに「060」から始まる携帯番号も追加される予定です。

このように普段何気なく目にしている 10 桁の数字には、日本の地理や通信技術の歩みがぎゅっと詰まっています。市外局番という「数字の住所」を知ることは、私たちが暮らす地域の歴史や場所のつながりを知ることであります。もしお子さんと一緒に電話をかける機会があれば、ぜひその番号が持つ意味を伝えてみてください。それはきっと、便利な道具の裏側にある「社会の仕組み」に触れる良いきっかけになるはずです。

編集:後藤

春休み、近くの博物館に行ってみよう！

はじめに

私たちの地元である大崎・五反田エリアにある「容器文化ミュージアム」はご存知ですか？
今回は親子で気軽に楽しく遊んで学べる、「容器文化ミュージアム」を紹介いたします。

容器文化ミュージアムってどんなところ？

いつの時代も人の暮らしを便利で豊かなものとするために、考え、作られ、利用されてきた容器包装。容器文化ミュージアムは、容器包装の中にかくれているさまざまな秘密を「ひらく」施設です。

実際に親子で行ってみた



今回はDコース（1時間45分）を体験。
まずは綺麗なミュージアム内を自由に見学。取材当日は企画展が開催されており、レトロなブリキ缶も特別に観覧することができました。
「昔はお醤油も缶に入っていたんだ～」など新しい学びも。



クイズにもチャレンジ！
よく目にする商品・容器ばかりで、子どもたちも「知ってるよ！」などと反応。
容器づくりを通して、日本らしい心遣いや技術力の高さを感じます。



年表や動画、実物展示を見ながら技術の進化と歴史を学ぶことができます。
私たち大人は、船内で蟹缶詰を作る「蟹工船」の様子に感動。大正時代の貴重な白黒映像だそうです。

また、打検（だけん）と呼ばれる検査体験もできます。これは、缶詰の缶の底を金属の棒で叩き、音の違いで品質を確認する方法です。他にも、ゴミ分別についてもゲームで学ぶことができます。



お楽しみのタイムカプセル缶づくり。
未来に向けて書いたお手紙と思い出の品を、専用の機械で缶詰にする工程を実際に見ることができます。「どうしたら蓋が缶にくっつくのだろう？」と子どもたちも真剣に観察しました。

ミュージアムの見どころ

①身近な容器の工夫を知る

飲み物や日用品などの多彩な容器包装には技術や知恵、工夫が驚くほどつめこまれています。

②興味深い容器の歴史

容器は、人の暮らしの中で役割や機能を進化させながら利用分野を広げてきました。

③タイムカプセルを作る

未来の自分や家族へ向けた手紙を缶詰にします。写真なども入れて、当日持ち帰ることができます。

おすすめ！案内つき見学コース・タイムカプセルづくり(予約制)

ミュージアムを見学するだけでも十分楽しめますが、説明員の方が容器の歴史や工夫をわかりやすく紹介しながら、案内して下さいます。「へえ〜！」という豆知識もお話して下さいます。

ミュージアムへ行ってみて

<子どもたちの感想>

- ・普段使っている容器にたくさんの工夫があることが分かって驚いた！
- ・リサイクルできるように分別して捨てようと思った！



<親の感想>

説明員の方が子どもたちの年齢に合わせた内容で説明してくださり大変わかりやすく、子どもたちも楽しく見学できました。容器をつくる工場の跡地にミュージアムが建っているなど、私たちの住んでいる街の歴史も垣間見ることができました。ミュージアムは広すぎず、コンパクトに楽しめるのもよいと思います。

<説明員の高荷さんより>

みなさんの住む街にあるミュージアムですが、知らない方も多いと思います。春には近くの日黒川の桜も満開になりますので、お花見しながら立ち寄って、容器のことを考えるきっかけにしてくださると嬉しいです。

容器文化ミュージアム（東洋製罐グループ）

〒141-8627 東京都品川区東五反田 2-18-1 大崎フォレストビルディング 1 階

【開館時間】 平日 9:00~17:00

【入場料】 無料

【アクセス】 大崎駅 北改札口を出て東口より徒歩 6 分



↑ 見学予約はこちらから

引用：容器文化ミュージアム公式サイト

取材／編集：業天・高橋

西品川のワシントン里帰り桜と桜まつりのご紹介

かつてアメリカ・ワシントン D.C.へ寄贈された桜が日本に里帰りして、西品川で大切に育てられているのをご存じでしょうか。その名は「西品川のワシントン里帰り桜」。

海を越えて再びこの地に根を下ろした桜は、毎年春になると淡い薄桃色の花を枝いっぱい咲かせます。

❀ 西品川とワシントン里帰り桜の由縁

西品川に植えられている「ワシントン里帰り桜」は 100 年以上前の日米友好の象徴として誕生した歴史を受け継ぐ特別な桜です。

1912 年、東京（当時は多摩地域など数か所）から約 3,000 本（注 1）の桜がアメリカ・ワシントン D.C.に寄贈されました。その桜の苗木の選別を行ったのが、河瀬春太郎です。当時、河瀬春太郎は「妙華園」の当主で洋花栽培の事業を行っていました。「妙華園」は妙光寺の隣にある広大な園芸場で、複数の小川が合流する水資源が豊富な土地でもありました。

園内には池や泉のほか、温室も兼ね備え、四季を通じて当時珍しい睡蓮、蘭や薔薇などが育てられました。「妙華園」は植物園以外に小動物園や運動場、売店等もあり、東京の新名所として来園者で賑っていたそうです。後に「妙華園」は後継者不足、工場の建設などの理由により閉園していますが、ワシントン桜の原点となりました。

ワシントン里帰り桜はアメリカに渡った桜の一部が保存・増殖されて“里帰り”という形で後に日本へ贈られたものです。東京都を中心に神奈川県横浜市、兵庫県伊丹市などで里帰りしたワシントン桜を見ることができます。西品川では 2017 年に東京都庭園美術館の里帰り桜の苗木が大崎ガーデンシティ周辺に植樹されました。



大崎ガーデンシティ周辺の桜の様子です。

3 月末から 4 月初頭にかけて開花します。ゆったり桜を鑑賞できる穴場スポットです！

❀ 大崎ガーデンシティ桜まつり

開花シーズンは地域の春の風物詩となった「大崎ガーデンシティ桜まつり」（注2）の時期でもあります。大崎ガーデンシティ桜まつりは地元の飲食ブース・キッチンカー、子ども向けイベント、音楽ステージなどの催しがあり、世代を越えて多くの人々が集い賑わいます。食・イベントを通じて地域の入居テナント企業、地域住民の親睦を深める場にもなっています。夜はライトアップされた桜が幻想的な景観をつくり、日中とはまた違った美しさを味わうことができます。

海を越えて再び日本の地に根を下ろしたワシントン桜は「国と国をつなぐ友情の証」「未来へ受け継ぐ平和のシンボル」「地域コミュニティ形成の架け橋」として受け継がれ、多くの人に愛されています。アメリカとの縁が息づく「里帰り桜」と地域の活気が出会う春のひとつ。桜の成長を見守り歴史と交流に想いをはせながら満開の花の下で心に残る時間を過ごしてみませんか。

河瀬春太郎はどんな人？

河瀬春太郎は、明治から大正時代にかけて西品川で活躍した園芸家・植物園経営者です。植物の輸入業も行い、日本における近代園芸の発展に大きく貢献しました。

春太郎は若い頃にアメリカへ渡り、近代的な園芸技術や温室栽培、植物管理の方法を学びました。

帰国後は、その知識と経験を生かし、西洋式の植物園経営や植物流通の仕組みを日本に普及させた先駆者となり、西品川に大規模植物園「妙華園」を開設しました。

当時、上流階級や官僚、外国人の間で庭園や公園用植物の需要が高まる中、妙華園は庭園樹木の供給、官公庁や公共事業向けの植栽、植物の選別や品質管理などにおいて重要な役割を果たしました。

河瀬春太郎は、植物流通と都市緑化の発展に寄与した西品川の偉人です！

（注1）寄贈本数は諸説あります。

（注2）開催日は桜の開花予想をもとに決定します。

編集：時友・尾谷

☆大崎第二地域センター管内のお知らせ☆

品川尚和会 館野会長 品川消防署より感謝状の贈呈

品川尚和会の館野正実会長へ品川消防署より感謝状が贈呈されました。

館野会長は、昨年12月1日に西品川3丁目で発生した火災において、自宅の屋上を消火活動のために開放するなど消防隊に協力し、その冷静な判断と勇気ある行動は被害の最小化に大きく貢献したとして今回の感謝状贈呈にいたりました。

昭和52年の17歳の時にも近隣火災の早期発見・通報・初期消火をして表彰されたことがあるそうで、今回は2度目となります。

館野会長は「品川尚和会では積極的に防災訓練を行っています、身についているといざというとき本当に役に立ちます」と話しています。

S52.6.10 の感謝状



R7.12.25 の感謝状



夏号休刊・紙面サイズ変更のお知らせ

いつも「ふれあい」をご愛読いただきありがとうございます。夏号は休刊となります。

次号は2026年9月24日（秋号）の発行予定です。また、紙面のサイズがA4に変更となります。

地域コミュニティ誌『ふれあい』 2026年 春号 No.162 2026.3.23発行

事務局: 大崎第二地域センター TEL: 3492-2000 FAX: 3492-2095

「ふれあい」は、大崎第二地区の地域の方(大崎中・芳水小・三木小のPTA)がボランティアで取材・編集している地域コミュニティ誌です。

「ふれあい」は、品川区役所ホームページからもご覧いただけます。
⇒<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>

品川区 地域ニュース ふれあい

検索

詳しくは
こちら⇒

